

## 平城京左京二条二坊五坪の調査 (平城宮跡 第204次)

### 現地説明会資料

1989年9月2日(土)

奈良国立文化財研究所 平城宮跡発掘調査部  
調査地 奈良市法華寺町  
調査面積 850㎡  
調査期間 1989年7月25日～

#### <はじめに>

この調査は「そごうデパート」駐車場造成にともなう事前調査である。調査地は平城宮東院の南にあたる一画であり、従来から平城宮との関連などが注目されていた重要な場所である。五坪については昨年(奈良市教委による調査)と本年4月(奈文研、平城宮跡第198次B区調査)に調査が行なわれており、今回は3回目にあたる。

#### <遺構の概要>

調査地の基本的層序は、上から耕土、床土、暗灰褐土(遺物包含層)、地山である砂層・粘土層に至るが、後述する門や築地雨落溝の周辺には地山上面にひろがる整地層がある。

検出した遺構は、掘立柱建物7棟以上、礎石建物1棟、塀4条、溝8条以上、井戸1基、欄1基などである。これらの遺構群は、重複関係、出土遺物、建物配置や、本年春に行なわれた今回の調査区の東隣地区の調査の成果を考え合わせて、奈良時代における五時期の変遷を想定した。

A期(遷都当初) 五坪南面には築地塀があり、この時期にはいまだ門は開かれていない。築地塀をはさみ南に二条大路北側溝、北に築地雨落溝が東西に走り、築地心から北へ約8.3mの位置には柱間10尺(3m)の掘立柱塀(塀1)がある。

B期(天平年間) 五坪南面の築地塀の中央に掘立柱の門(門1、桁行2間、13尺等間)が開き、この門の北約50mに東西棟の大形建物(建物1、梁行4間、桁行2間以上、10尺等間)が建つ。また、五坪東辺部には長大な南北棟建物(桁行20間以上、梁行4間、8尺等間)が

あり、全体として官衙的な建物配置を示す。二条大路路面上には東西両端がとぎれた堀(東西大溝(北)、幅2.3m、深1.3m)があり、この堆積土下層には数多くの木簡、土器を含む木屑層がある。

C期(奈良時代後半) 南面の門が礎石建ちの門(門2、桁行1間・15尺、梁行1間・8尺)に変わる。門を入った東には南北塀(塀2、15間以上、柱間10尺)があり、門の北50尺(15m)の位置で東に折れる。

D期(奈良時代後半) 南面の門は変わらないが、門前面の二条大路北側溝がコ字形に南に張り出し、溝には簡単な橋が架かる。この溝の外側には小さな塀(塀3、6間・6尺)があり、目隠塀かと考えられる。門を入ると大きな井戸があり、さらに北には東西にのびる単廊(桁行9~10尺、梁行8尺)があり、五坪を南北に二分する。

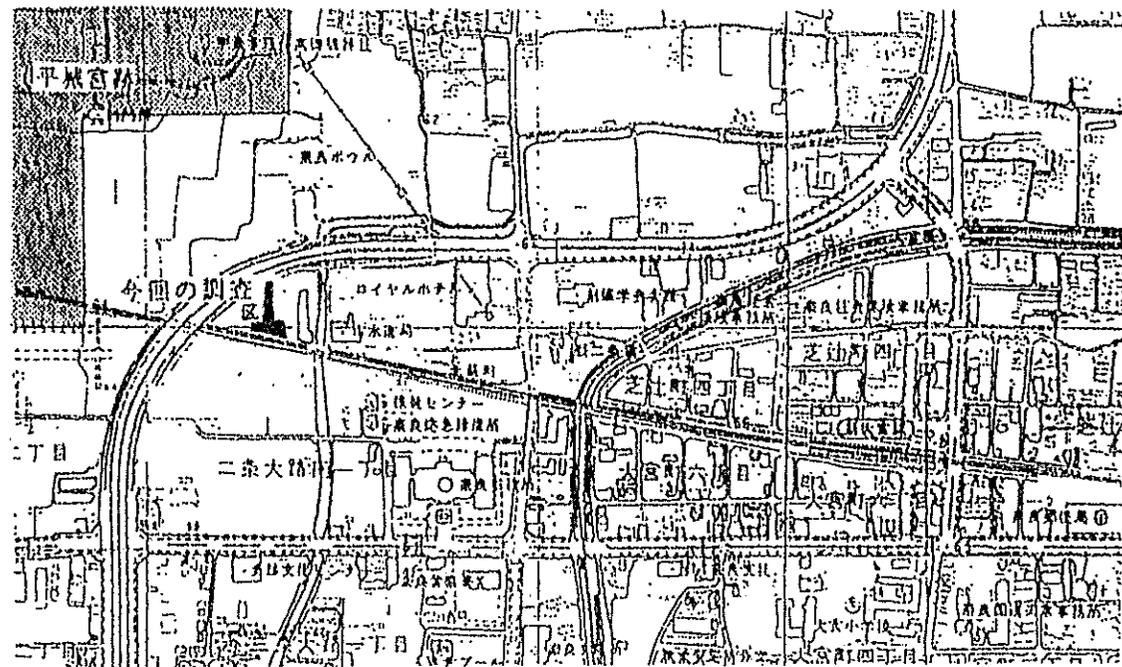
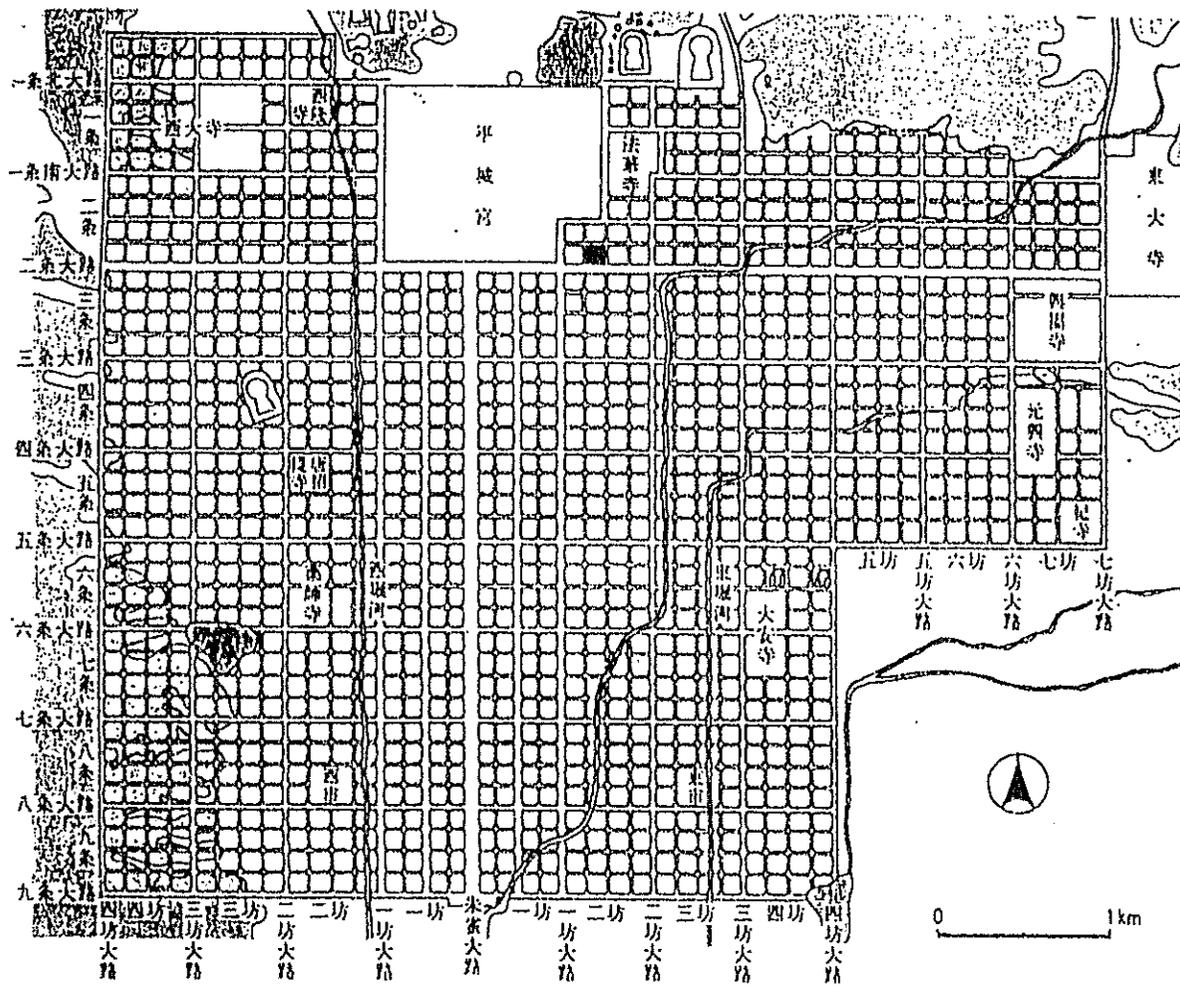
E期(奈良時代末) 門前面の溝の流れがゆるやかな曲がりとなり、内部の建物も建て替わる。五坪中央に柱根元に十字形に礎板を据えた、強固な建物(建物2、梁行総長45尺)がある。

#### <出土遺物>

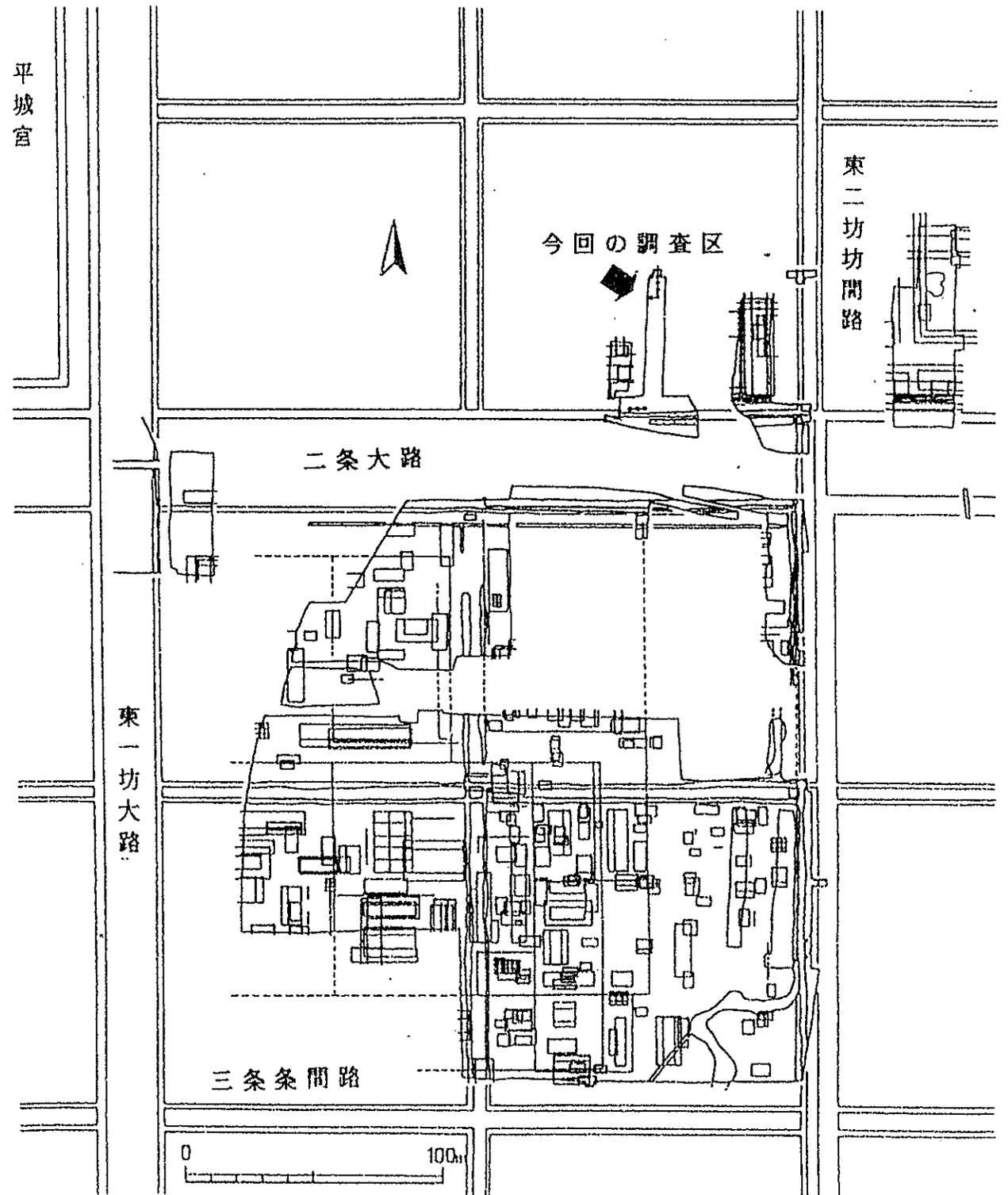
遺物は発掘区の南にある東西大溝(北)に堆積した木屑層中にある大量の木簡をはじめ、木製品、土器、瓦など注目すべきものが多い。土器は土師器・須恵器の食器類が多い。墨書土器も少数存在する。軒瓦では平城宮と共通するものが目立つ。木製品には曲物容器・漆器などがある。

<まとめ> 南北に細長い調査区であり、建物としてまとめるにはかなりの推定をともない、さらに全体の建物配置となると想定の域を出ない。このような前提のもとではあるが、今調査の主な成果は以下の点である。

- 1) 二条大路に開く門が五坪の中軸線上にあり、一町以上の敷地利用であること。
- 2) 大規模な建物、塀があり一般の京内宅地の様相とは異なり、平城宮東院南方地区の特異な性格をうかがわせること。
- 3) 五坪内の建物配置が時期ごとに大きく変化すること。
- 4) 木簡をはじめ重要な数多くの遺物が出土したこと。



調査区の位置



周辺の調査状況

KF —

E —

D —

C —

B —

KA —

JT —

S —

R —

Q —

P —

O —

N —

M —

L —

K —

J —

I —

H —

G —

F —

JE —

17.860

建物 2

17.840

— 145.960

草廊

建物 3

建物 5

井戸

塀 2

建物 4

塀 1

雨落溝 1

門 2

雨落溝 2

雨落溝 3

— 146.000

門 1

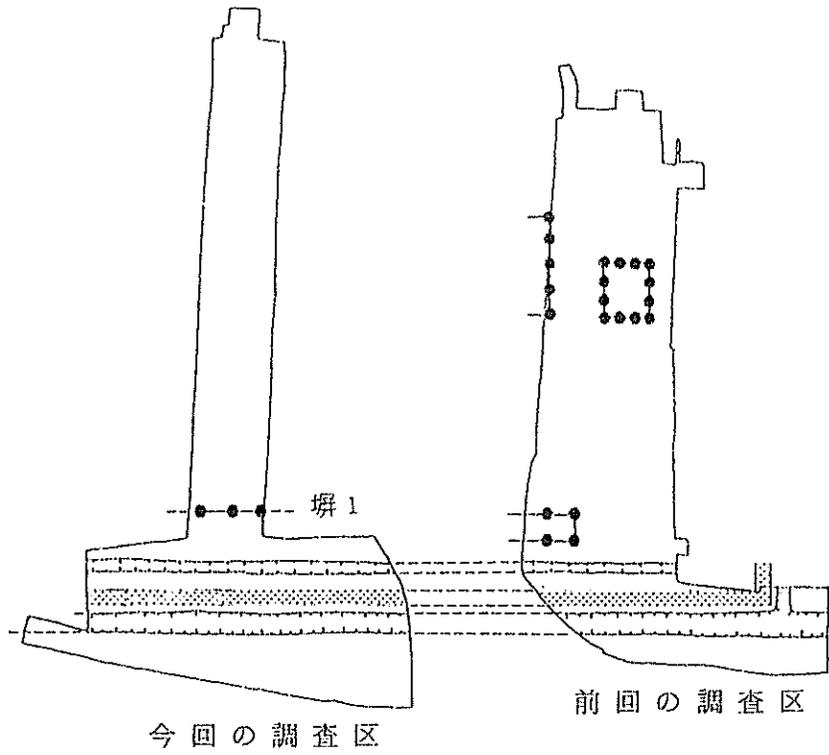
築地塀

二条大路北側溝 1

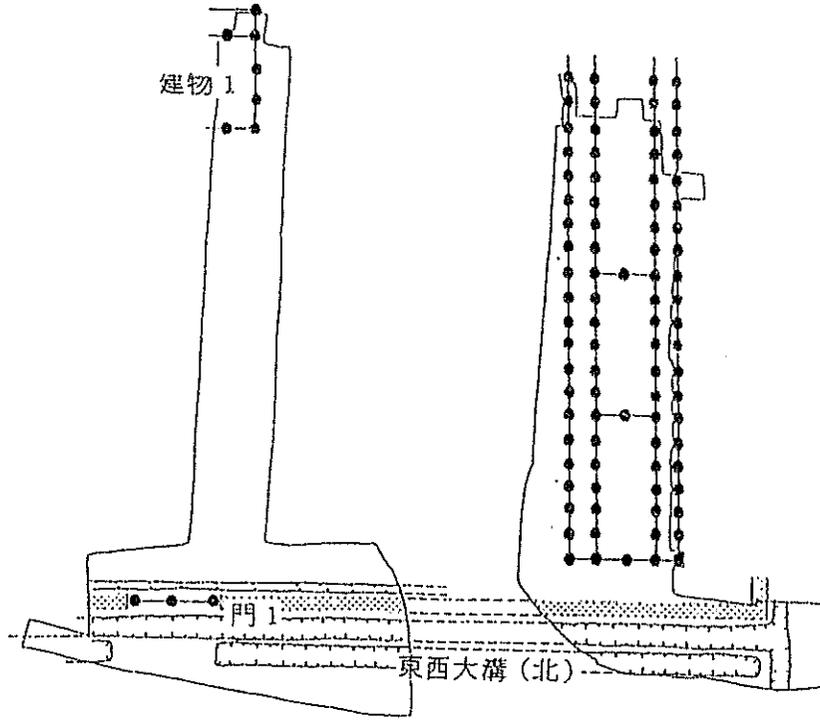
京西大溝 (北)

塀 3

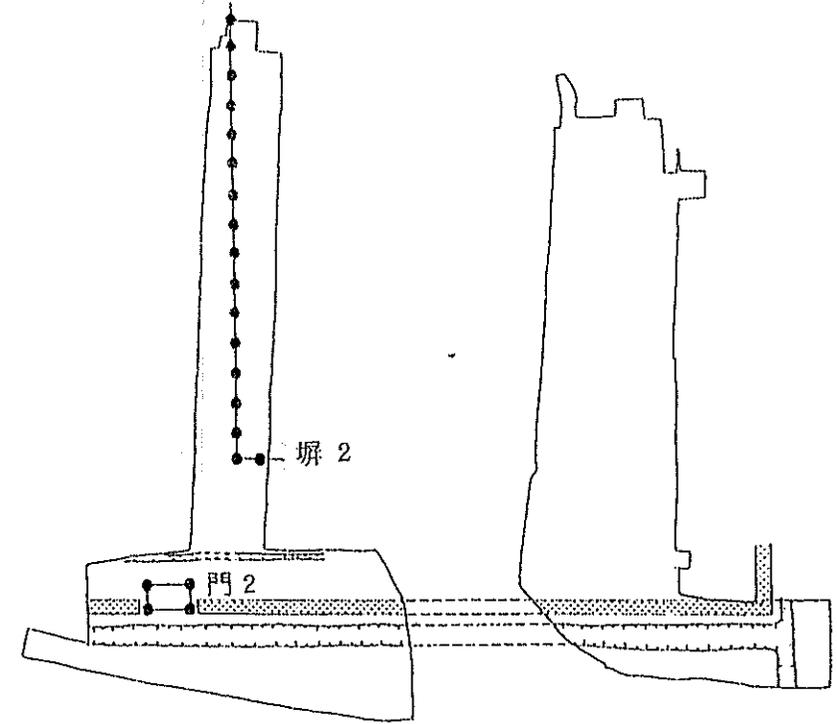
A



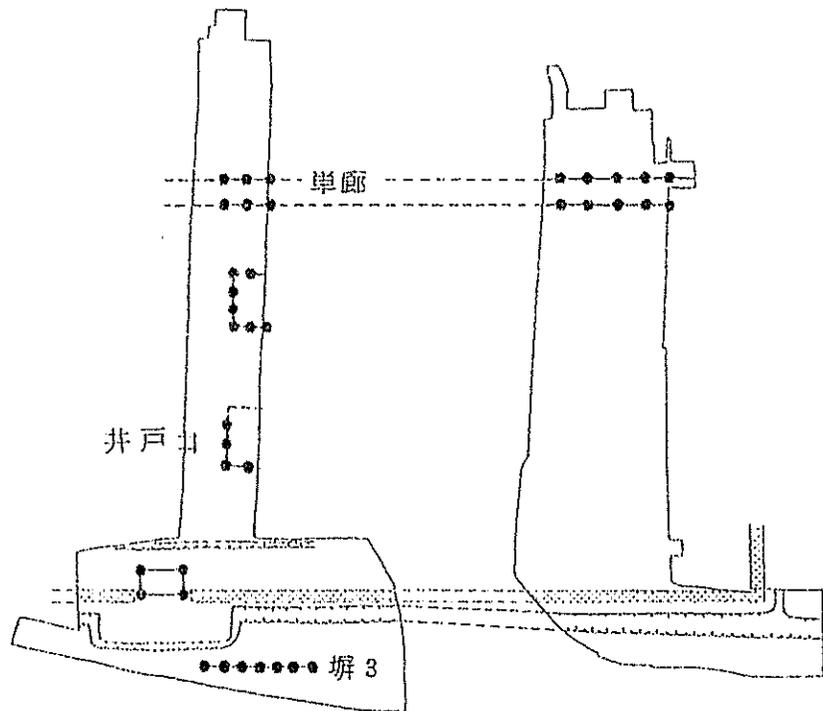
B



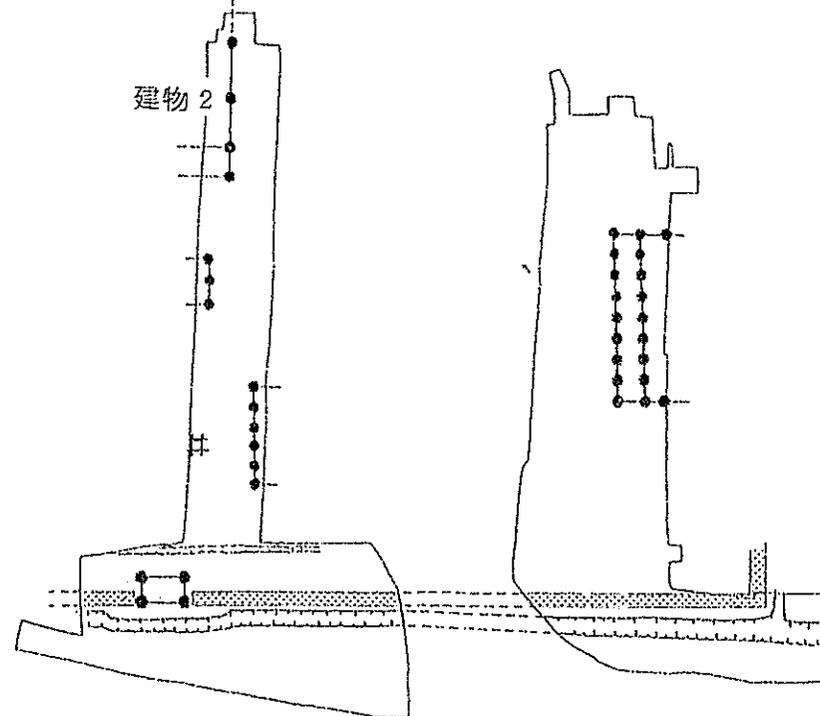
C



D



E



第二〇四次調査 東西大溝出土木簡

①・右京七条二坊戸主勲十二等台千嶋之戸口千人 年十六  
・右人所盜依豎子放依状注坊令等宣令知 八年十月廿九日 332・35・6

②・二門 佐伯 皇后宮 雪 少山田 画師  
大伴 丈部 参河 太  
・合二十二入依数入奏□ (180)・24・2

③・牒 五十長等所 進入人堤家主 右人  
・取今月五日酉時進入如件 九月五日付得 嶋門 □ 253・32・3

④・膳所宿直 合二人 奴少君万呂 婢有々女  
・直資人一人 岡□□足 天平八年六月廿一日 349・43・4

⑤・直資人十一人 大石毛野 志貴子老 伯祢大魚 佐本乙万呂  
田部諸君 荒田公万呂 秦真葛 狛安德  
太乙万呂 屋形諸魚 佐伯古万呂  
志貴子老  
・宿資人三人 伯祢大魚 天平八年六月三日田部諸公 311・45・2  
狛安德

⑥ 備前国児嶋郡小豆郷調水母二斗八升 175・17・4

⑦・

□□果	羊蹄二斗	茶三斗五升	蓼四升
□□把	葵二斗	蘿蔔六把	合七種

  
・□□ 天平八年八月廿日正八位上行令史日置造「宜」 (270)・31・3

⑧・岡本宅謹 申請酒五升 右為水葱撰雇女  
・□給料 天平八年七月廿五日 六人部諸人 257・(24)・5

(墨書土器)

岡本宅謹申請酒五升右

岡本宅謹申請酒五升右

為水葱□雇女□給料 天平

八年七月

岡本宅謹申請酒五升